

## 令和3年度大和郡山市在宅医療・介護連携推進会議(報告)

実施日	令和3年5月24日(月)午後2時00分～午後3時10分
場所	矢田コミュニティ会館(web 併用)
参加者	(大和郡山市医師会)松本光弘 (大和郡山市歯科医師会)胡内昌久、福辻 智 (大和郡山市薬剤師会)仲谷尚起 (大和郡山市訪問看護事業者連絡会)増井香里 (大和郡山市リハビリテーション連絡協議会)吉田信也 (大和郡山市居宅介護支援事業所連絡会)大槻啓子、三島 友、森本貴彦 (大和郡山市地域医療連携担当者連絡会)砂原直美 (大和郡山市地域包括支援センター)駒谷 功、胡内貴子、上田紫穂 (大和郡山市介護福祉課)往西重夫 (大和郡山市地域包括ケア推進課)山内英之
サポートメンバー	(大和郡山市第二地域包括支援センター)永野智也 (大和郡山市第三地域包括支援センター)苗村 緑 (大和郡山市第四地域包括支援センター)楠本正蔵、北村洋子
事務局	(大和郡山市地域包括ケア推進課) 吉村博幸、本間亜矢、西森太一、小幡亜紀子

### 1. あいさつ

○大和郡山市福祉健康づくり部長 山内英之

本日は大和郡山市在宅医療・介護連携推進会議に大変お忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。今回はコロナ禍のため、web 会議による開催となり、ご理解・ご賛同いただき、心より御礼申し上げます。また、新型コロナウイルス感染症拡大のなか、日々の医療と介護の最前線において、患者の治療、利用者の生活支援に尽力をされている皆様には、心から敬意を表するとともに、深く感謝申し上げます。

さて、地域包括ケアシステムの構築とは、ご承知の通り介護状態になっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるように、地域で高齢者を支える社会の実現です。そのためには医療、介護、介護予防、住まい、生活支援について、様々な関係機関、団体などが一体的に提供する仕組み作りが重要となります。本市の在宅医療・介護連携の取り組みについては、独自の入院ルールや情報連携ツールをはじめ、奈良県下において多職種の連携が取れた事業展開をされていると非常に高い評価をいただいています。ご参加の皆様には、この連携会議を最大限に活用し、大局的な観点から建設的な議論を積み重ね、情報共有、共通理解の中、医療・介護連携をさらに進めて頂きたいと思っております。ご参加の皆様どうかよろしくお願いいたします。簡単ではございますが、開会の挨拶とさせていただきます。

## 2. 令和2年度大和郡山市在宅医療・介護連携推進事業実施状況

\*大和郡山市在宅医療・介護連携推進事業と各種会議について

ア)地域の医療・介護の資源の把握

イ)在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

……………在宅医療・介護連携推進会議

ウ)切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進

…作業部会C「在宅医療・介護関係者と病院関係者の連携」

エ)医療・介護関係者の情報共有の支援

……………作業部会B「情報連携ツール」

オ)在宅医療・介護連携に関する相談支援

……………在宅医療介護支援センター

……………在宅医療・介護相談窓口担当者連絡会

カ)医療・介護関係者の研修

……………作業部会A「顔の見える関係づくり」

……………人生の最終段階における医療・ケア研修会

キ)地域住民への普及啓発

……………市内医療介護Webマップ

ク)在宅医療・介護連携に関する関係市町村の連携

…県が開催する研修会への参加、近隣市町村との情報交換など

ケ)その他

……………作業部会D「認知症高齢者等への支援」

……………作業部会E「看取りの支援」

……………一人暮らし高齢者等の緊急連絡先の共有に関する  
情報交換会

\*実施状況報告

○地域包括ケア推進課 西森 太一

・在宅医療・介護連携推進会議

令和2年6月29日

令和元年度在宅医療・介護連携推進事業報告

大和郡山市在宅医療介護支援センターの活動報告

令和2年度在宅医療・介護連携推進事業について

新型コロナウイルス感染症への対応について 等

令和2年11月9日

情報連携シートの改訂について

新型コロナウイルス感染症への対応について

大和郡山市在宅医療・介護関係者と病院関係者の連携実態調査報告

令和2年度の予定について 等

・作業部会A「顔の見える関係づくり」

実施なし。

・作業部会B「情報連携ツール」

令和2年7月13日

情報連携シートの改訂について

新型コロナウイルス感染症の対応に関する研修会について 等

- ・作業部会C「入退院調整ルールづくり」「在宅医療・介護関係者と病院関係者の連携」  
令和3年3月22日(web 会議)

入退院調整および新型コロナウイルス感染症のアンケート報告

コロナ禍における工夫や病院と地域の連携、家族介護者等が不在になる場合に要支援・要介護者の在宅高齢者に必要となる支援についてのグループワーク 等

- ・作業部会D「認知症高齢者等への支援」

令和2年10月19日

認知症予防ガイドブック(案)について 等

- ・作業部会 E「看取りの支援」

実施なし。

- ・その他

令和2年8月1日～

新型コロナウイルス感染症の対応に関する調査

職種・事業所別に、事業所での感染予防対策や参考にしたもの、web 会議の活用状況等を調査

令和2年10月1日～10月26日

新型コロナウイルス感染症の対応に関する研修会

期間限定で動画形式にして配信。

導 入: COVID-19アンケート結果について 地域包括ケア推進課

セミナー①: 新型コロナウイルス感染症の病態、検査、感染症対策の実施について  
奈良厚生会病院 医師 米川真輔

セミナー②: 在宅での感染症対策について

訪問看護ステーションファミリー 尾形悠香 看護師

セミナー③: 自粛生活における高齢者の心身の影響について

こころの訪問看護ステーションひなた 森脇 崇 看護師

令和2年12月21日

大和郡山市在宅医療・介護相談窓口担当者連絡会

\*参加者報告

作業部会 A「顔の見える関係づくり」

○地域包括支援センター 駒谷 功

研修会については、新型コロナウイルス感染症の影響で行えていないが、多職種連携のための事例検討会を各包括圏域で開催した。地域包括支援センター圏域の郡山北・西地区は2月12日19名17事業所の参加があり、矢田地区は2月9日11名8事業所から参加があった。第二地域包括支援センター圏域では、1月18日の予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で延期し、6月15日に開催を予定している。第三地域包括支援センター圏域の筒井・昭和・治道地区は、2月9日22名13事業所の参加があった。第四地域包括支援センター圏域の郡山南・平和地区は3月18日16名11事業所の参加があった。

多職種という点では、薬剤師、訪問看護師、障害の支援センターからの参加があり、特に薬剤師

に関しては12薬局からの参加があり、様々な意見をいただいた。

この事例検討会は毎回事例のテーマを事前に知らせ、興味のある所に参加いただくという形を取っており、今回のテーマは、「認知症夫婦の支援について」、「パーキンソン病や統合失調による自分らしい生活ができずにトラブルになる高齢者の支援」、「在宅生活を希望する本人と家族との温度差」、「身寄りのない高齢者への支援」などをとりあげた。

薬剤師の参加が多く、その視点で様々な薬の処方についてのこと、統合失調症の薬によるアップダウンの状況をどういう風に抑えていくかといったことや、薬の再開の仕方等の意見いただいた。訪問看護師からは認知行動療法、精神科の受診や様々な支援方法について助言をいただいた。

今までの事例検討会では、サービスの内容どうするのかという話が多かったが、最近は仕組みのことや関わり方に重きをおいて、話ができるようになってきており、多職種連携がよりできているように思う。今年度も開催を予定しているので、よろしく願います。

研修会も何とかできるようにと検討をしているが、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながらになるため、色々と情報があつたら発信していきたい。

#### ○大和郡山市薬剤師会 仲谷尚起

最近の薬局の動向として、かかりつけの薬局・薬剤師にも、多職種連携が必須になってきている。薬局・薬剤師のなかには、多職種連携会議に出たことがなく、何を話せばいいのかわからないという人もまだいるので、こういった研修会に参加できる機会を活かして、どの薬局・薬剤師でも、その見地から意見が言えるようにしていきたいと思う。こういった研修会・事例検討会を非常にありがたく思っているため、これからもよろしく願います。

#### 作業部会B「情報連携ツール」

##### ○大和郡山市居宅介護事業所連絡会 大槻啓子

情報連携シートが7月に改訂され新しくなった。従来のものは2枚あり記入箇所が増えてきていたが、1枚になったことで、事務的にすごく簡略化されたように思う。共有ツールということで、自分たちが欲しい視点を活かしながら作られて来ているので助かっている。コロナ禍では、病院やかかりつけ医にもなかなか足を運ぶことができないので、この連携ツールがあつて特に良かったと思う。

#### 作業部会C「入退院調整ルールづくり」「在宅医療・介護関係者と病院関係者の連携」

##### ○大和郡山市地域医療連携担当者連絡会 砂原直美

コロナ禍では病院も面会制限があり、今まで出来ていた退院前カンファレンスやケアマネジャーとの面談が出来なくなっていた。そのため、入院中に変化があった患者のADLを伝えるのが、口頭やFAX文書による情報提供が主となり、不便をかけている。そういった中でも、各担当で工夫しながら、廊下を歩いているところを見てもらいADLの確認に繋げる、病院によってはLINEや映像を録画したものを見てもらってリハビリ状況を確認に繋げる等の方法で情報提供をしていた。最小限のカンファレンスということで、各医療機関ともに件数については減ったという状況であった。

#### 作業部会D「認知症高齢者等への支援」

○大和郡山市地域包括支援センター 上田紫穂

認知症予防ガイドブックの作成に取り組んできた。完成後も増刷をしながら、これまで4000部発行している。完成後、各団体にお配りした他、予防ガイドブックの概要版を全戸配布も行い、出前講座など様々な機会に活用し、市民から好評をいただいている。作成にあたって部会の皆様には、原稿の協力をいただき感謝している。今後、周知していくなかで、再度各団体の協力をいただきたいので、よろしくお願いします。

#### その他

○大和郡山市居宅介護支援事業者連絡会 三島 友

昨年はコロナ禍のなかで、感染状況に応じて、モニタリング訪問や入退院連携等の対応を変えるようにしていた。その対応についても、本当に正しいものかわからないなかで模索している状況であった。事業所内で対応の検討はもちろん、他の事業所とも相談をしながら対応を考えることもあり、居宅介護事業所連絡会と主任介護支援専門員懇談会で集まる機会を増やし、どうしたらその時々でより良いケアマネジメントを行えるのか、答えが出にくい中でも話を続けている状況であった。ケアマネジャーといっても、事業所に所属している人もいれば、1人でやっている人もいる等、状況も立場も様々になるが、悩んでいる状況には変わりがなかった。そこを保険者にも知ってもらい、協力しながら利用者の命や生活を守っていけるよう、市の介護福祉課の係長、地域包括支援センターにも入ってもらい、10月に情報共有の場を設けることが出来た。その後も、今年に入って2度意見交換会を開催し、今後もコロナ禍のことだけでなく、災害時の対応等、協力体制を続けていきたいと考えている。

また、11月にはコロナ禍におけるケアマネジメントについて、ケアマネジャーを対象にアンケートを行った。そのタイミングでの現状が把握でき、去年の春と比べるとコロナ禍でのモニタリング訪問等の対応に慣れてきていることがわかった。そのほか、事業所内だけでなくケアマネジャー同士の横のつながりで相談しながら利用者に対応している現状も窺えた。コロナ禍をきっかけに、事業所内でオンライン会議が始まるなど、オンラインの活用が進んでいることもわかった。

この3月には、医療・介護連携会議においても初めてのweb会議であったが、ケアマネジャーも多数参加し、グループワークも思ったよりもスムーズにできていたと思う。今後、これもきっかけに、ITを恐れず、安全なモニタリングや業務簡素化にも繋げられるよう、上手に使っていかれたらと考えている。最後に昨年はコロナ禍で研修会が実施できなかったのが、今年はコロナ状況にもよるが、時期や方法等を検討しながら実施できるように考えている。

### 3. 大和郡山市在宅医療介護支援センターの活動報告

担当者欠席のため、紙面報告のみ。

#### 4. 令和2年度在宅医療・介護連携推進事業について

\*スケジュール

○地域包括ケア推進課 本間亜矢

- ・大和郡山市高齢者福祉計画及び第8期介護保険事業計画(2021年度～2023年度)抜粋  
第8期介護保険事業計画の中では在宅医療介護連携の強化というのが大きな柱の一つとなっており、成果指標や目標が設定されている。
- ・令和3年度大和郡山市在宅医療・介護連携推進事業計画(案)について  
作業部会 B では、今までの連携がどのように進んできたか、どういう方向に進めて行くかとうこととの調査の検討を行いたい。  
作業部会 C について、来年1月頃に開催予定。  
作業部会 D・E については、市民への啓発の検討等が中心になっていく予定。
- ・大和郡山市在宅医療・介護関係者の連携に関する調査(案)について  
平成28年から取り組んできた成果及び今後の方向性を確認するために調査を行う。  
6月7日の作業部会 B で意見をいただき、8月中に調査を開始したい。

#### 5. その他

○大和郡山市歯科医師会 福辻 智

奈良県歯科医師会在宅歯科医療連携室から、マナボットを使用した口腔ケア講習会の案内があった。各事業所への出前講座が可能とのことなので、興味があるようなら奈良県歯科医師会に直接連絡をしてもらいたい。

#### 6. おわりに

○大和郡山市医師会 松本光弘

3月の時点でも、予想されていましたが、人が動く大変な状況になるというのは、去年から変わっていないように思われます。今後については、ワクチンが大きな希望となります。国を挙げていかに迅速にワクチンを浸透させていくかと頑張っている段階ですが、なかなか簡単に済む話でもありません。ワクチン接種が一通り終わったとしても、新型コロナウイルス感染症の脅威が完全に消えることまでは、期待できないかもしれません。ウィズコロナはこれからも続くと思います。ただ第4波のような大きな波にはならず、ワクチン接種が広がるとともに少しずつ小さくなっていくだろうと思います。医療・介護連携もレールに乗ってきた段階であり、新型コロナウイルス感染症に今試されています。現実的に在宅で頑張っている人もたくさんいらっしゃる状況では、新型コロナウイルス感染症があっても、我々はそれに応えていかなければなりません。1月も申し上げたように、今年度も大変な状況が続くかと思えます。しかし、地域の方々の要望に応えていかないとはいけません。みんなで協力して頑張っていきましょう。よろしくお願いいたします。